

倫理審査委員会

開 催 日：平成28年9月30日（金）

出 席 者：教育研修部長、産婦人科部長、事務部長、看護部長、管理課長、
伊藤外部委員、鹿目外部委員

検討事項：気道手術における腕頭動脈瘻発生リスクの比較検討

議論の概要：嚥下障害により繰り返す誤嚥性肺炎に対する外科的治療として、喉頭全摘術、声門閉鎖術、喉頭気管分離術などがあるが、小児外科あるいは重症心身障害者療育では、喉頭に手術操作を加える必要のない簡便さから、通常気管切開と同じ第2第3気管輪レベルの視野で手術操作をする喉頭気管分離術が行われている。術後は、喀痰吸引や肺炎による入院の回数が減り、QOLが向上する。一方で、喉頭気管分離術には気管腕頭動脈瘻という合併症を来す危険性があり、死亡例もあった。

そこで、嚥下障害手術における術式選択の段階で気管腕頭動脈瘻の発生を回避すべきであると考え、声門閉鎖術を取り入れ、術後良好な結果が得られていることから、我々の行った気管切開術、喉頭気管分離術、声門閉鎖術の比較検討を行う研究の可否。

審査結果：承認

倫理審査委員会

開 催 日：平成28年9月30日（金）

出 席 者：教育研修部長、産婦人科部長、事務部長、看護部長、管理課長、
伊藤外部委員、鹿目外部委員

検討事項：eye pointingを用いた選択行動の形成
～重症ミオパチー患児の症例～

議論の概要：重症ミオパチーの疾患により、日常生活全介助、人工呼吸器を必要としており、言語的、非言語的コミュニケーションの手段も極端に限られたものになっているが、ストレスを感じると心拍数の上昇、流涙などで快・不快の意志表示をすることもできることから、何らかの方法を用いれば、意志を看護師が判断できると考えた。意志を判断することで、発達を促すアプローチやコミュニケーションの幅が広がり、成長発達を促す一助となると思われる。

先行研究において、脳性麻痺の児を対象に「eye pointing」を用いたプログラムを作成したところ、提示刺激を注視する選択行動を獲得できたという報告があり、重症ミオパチーではあるが、動かすことが可能な眼球の動きを活用し「eye pointing」を用いた意志ある選択行動がとれるのではないかと考え行う研究の可否。

審査結果：条件付承認

倫理審査委員会

開 催 日：平成28年9月30日（金）

出 席 者：教育研修部長、産婦人科部長、事務部長、看護部長、管理課長、
伊藤外部委員、鹿目外部委員

検討事項：小児手術にディストラクションを取り入れた不安・緊張緩和の効果の検証

議論の概要：手術を受ける児の不安、緊張の軽減を目的に同伴入室が行われ、その有効性が報告されていることから、親との同伴入室を導入してきた。

しかし、前室で親がガウン等を着用したとたん啼泣する児が多く、術後訪問時に親より「私がガウンを着たら、子供の表情が変わった」という話もあった。

小児外科手術は、当日入院、当日手術のため、短時間のうちに様々な環境の変化を受け、児の不安や環境が増強するし、親のガウン等の着用が児の環境変化の一因となり、不安が高まり、啼泣につながっているのではないかと考えた。

近年、不安、緊張を和らげるためにディストラクションが取り上げられており、生活の中心である遊びとしてのキャラクターを、親が着用するガウン等に取り入れることで児の不安を少しでも和らげ啼泣することなく入室できるのではないかと考え検証に関する可否。

審査結果：条件付承認

倫理審査委員会

開 催 日：平成28年11月2日（水）

出 席 者：事務部長、看護部長、管理課長、伊藤外部委員、鹿目外部委員

検討事項：早産児の周産期データと長期予後に関する調査

議論の概要：ハイリスク児の予後を改善するためには、我が国のハイリスク児、特に早産児、極低出生体重児の予後を登録し、その背景因子を分析、そして予後に関連する因子について診療内容を標準化することが望ましい。そのため、ハイリスク児を対象とした全国規模のデータベースを構築して医療水準の現状と経時的推移を把握する必要がある。

周産期データとアウトカムを分析することで、予後に影響する診療行為を特定し、解析結果を各施設にフィードバックすることで各施設の診療の標準化を行うことを目的として、2003年より全国の周産期母子医療センターに入院した在胎週数32週未満（現在は34週未満）もしくは出生体重1500g以下のハイリスク児を登録する周産期母子医療センターネットワーク（以下NRN）データベースを稼働させた。

一方、福島県の周産期医療の統計を振り返ると、新生児死亡率は全国平均とほぼ同等、もしくは平均以上と良好に推移しているものの、出生体重1500g未満児の3歳児予後では、全国に比して脳性麻痺が多く、無欠発育が少ないという状態が続いている。

そこで、福島県内の出生体重1500g未満児を収容する全施設で、NRNデータベースと同様の周産期データを収集し、その後の1歳半、3歳時予後との関連について分析し、さらに、全国の解析結果と比較して、県内の周産期医療の現状を把握することを目的に行う研究の可否。

審査結果：承認